

NAKANOSHIMA
MUSEUM
OF
ART,
OSAKA

中之島 2021

アートが動くまち。

アートが動かす大阪。

大阪中之島美術館準備室は、2014年に策定された「新美術館整備方針」を踏まえ、4つの〈新しい美術館のめざすべき姿〉を描いています。

1 国内外から注目を集め世界に誇れる美術館
第一級のコレクションの魅力を引き出すコレクション展示室や
大規模巡回展にも十分対応できる関西最大級の企画展示室を備える

2 これまでにない独自性を有した先進的な美術館
豊富なコレクションを活用した芸術体験の提供や
アーカイブを活用した情報発信など美術館の新たな魅力を創造する

3 賑わいにあふれたまちづくりを主導する美術館
美術館のイメージを刷新する魅力的なサービス施設やオープンスペースを備え
幅広い世代の人がアートに気軽に出会え楽しむことのできる施設を実現する

4 将来にわたり質の高い公共建築として利活用される美術館
来館者はもちろんのこと、展覧会の企画運営を担う学芸員や
施設の管理運営を担う事業者などすべての人に利用しやすく機能性に優れ
次の世代につながる美術館をめざす



建物をつらぬく「パッサージュ」

新しい美術館におけるパッサージュとは、
誰もが気軽にアクセスでき、訪れる人にとって居心地のよい場所。
美術館に興味がある人も、ない人も、
誰もが自分の「居場所」を見いだせるような存在となる場所です。
大阪のまちを移動する人々が通り抜け、そこは、時にアートを体感できる空間となり、
アートの活動拠点となり、さまざまな活動ができる流動的な空間となります。
そして、建物の内と外を融合する空間でもあります。
そんな新しい美術館の顔となる場所「パッサージュ」を
「展覧会入場者だけでなく幅広い世代の人が
誰でも気軽に自由に訪れることのできる賑わいのあるオープンな屋内空間」として、
公募型設計競技で提案を求めました。
選ばれた最優秀案は、「さまざまな人と活動が交錯する都市のような美術館」が提案されています。
その中心に位置するパッサージュは、建物の「spine＝背骨」として、1～5階まで吹き抜け、
天井から柔らかく光が降り注ぐ、立体的な空間となります。

設計者紹介

株式会社 遠藤克彦建築研究所 代表取締役
遠藤 克彦 | Katsuhiko Endo

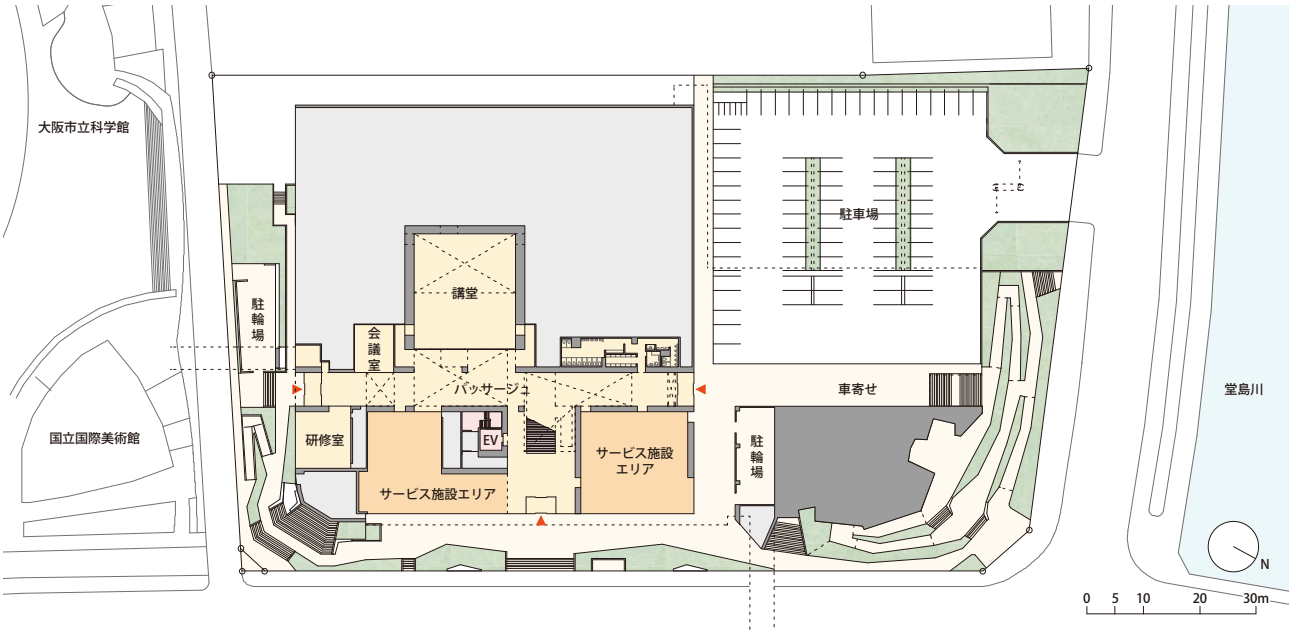
- 略歴
- 1970年 横浜市に生まれる
 - 1992年 武蔵工業大学(現 東京都市大学)工学部建築学科卒業
 - 1995年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻修士課程修了
(東京大学生産技術研究所 原広司研究室在籍)
同大学院博士課程進学
 - 1997年 遠藤建築研究所設立
 - 2007年 株式会社遠藤克彦建築研究所に変更
 - 2010年～ 東京工芸大学工学部建築学科非常勤講師(～2016年)
 - 2011年 慶応義塾大学大学院理工学研究科非常勤講師
 - 2011年～ 国士舘大学理工学部理工学科建築学系非常勤講師(～2014年)
 - 2014年 工学院大学建築学部非常勤講師
 - 2015年～ 日本大学理工学部建築学科非常勤講師

- 受賞歴
- 2016年 第15回 公共建築賞 優秀賞(豊田市自然観察の森ネイチャーセンター)
 - 2016年 グッドデザイン賞(15WINDOWS―池田山の集合住宅)



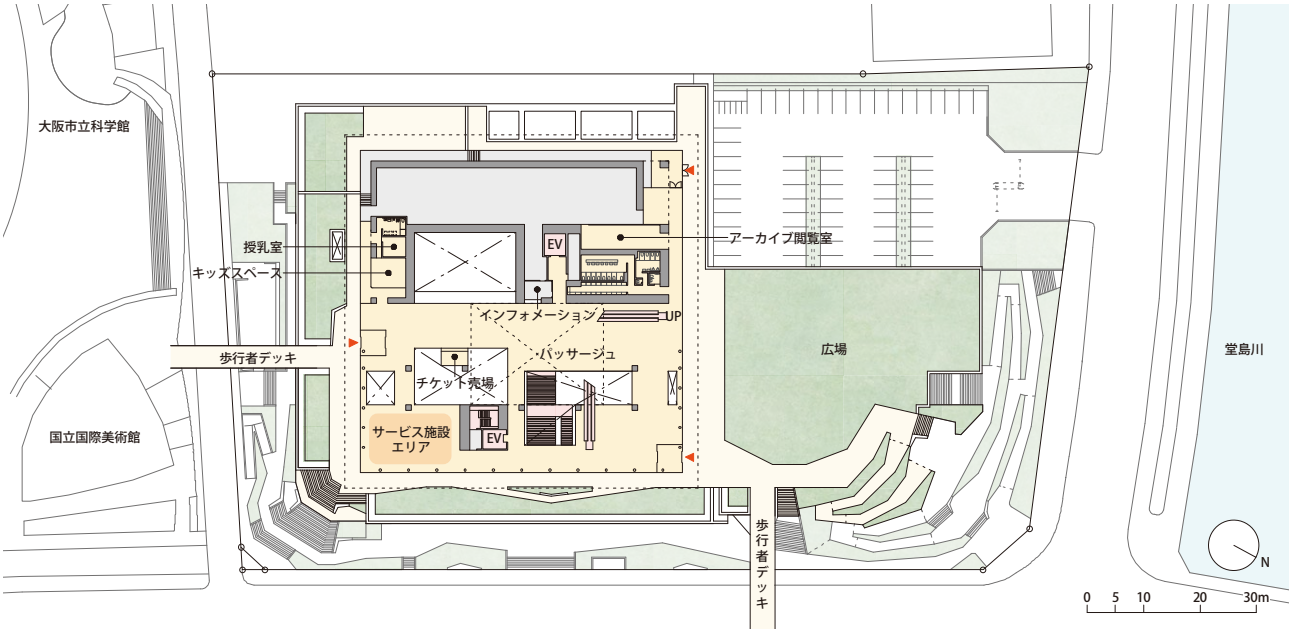
1F

カフェやレストラン、ミュージアムショップ等のサービス施設は、充実したスペースを確保し来館者サービスの向上を図るとともに、周辺を行き交う人々が気軽にアクセスできるよう配置することで、エリアの賑わい創出にも貢献します。また、建物の中心に位置する講堂や南側入口付近に配置された研修室は様々なレイアウトが可能で、講演会やワークショップに加えて、コンサートや演劇、レセプションなど多彩なプログラムが開催できます。



2F

2階レベルで建物周囲に巡らされた人工の地盤は、歩行者デッキを介して周辺の敷地ともつながり、まちの回遊性向上に寄与します。また、来館者が最初に訪れるパッサージュ空間は、多方向に出入口を設け、誰もが気軽にアクセスできるよう工夫されているとともに、吹き抜けを介して立体的につながり、各階の空間的な連続性にも配慮されています。特に、吹き抜け内に大胆に設置されたエスカレーターは、来館者の気持ちを盛り上げてくれることでしょう。

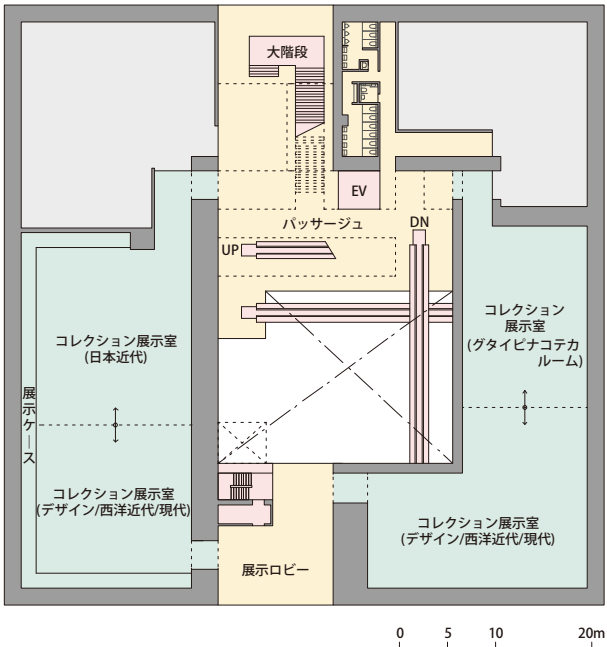


グタイピナコテカルームとは

関西を拠点に国際的な活動を展開した前衛美術グループ「具体美術協会」(1954～1972)は、1962年、中之島に展示施設「グタイピナコテカ」を開設しました(ピナコテカ＝絵画館のこと)。リーダー・吉原治良所有の土蔵を改修した展示室では、「具体」メンバーをはじめ海外作家の作品も展示され、国際交流と情報発信の場としても機能しました。大阪中之島美術館では「具体」を顕彰し、その先鋭的な活動を受け継ぐ場として、特別な展示室を設置します。



4F



コレクション展示室

大阪中之島美術館が所蔵する約5,700点の貴重なコレクションを中心に展示するコレクション展示室は、日本画の大規模な展覧会も開催できるよう約60mの展示ケースを設置しています。さらに、具体美術を特集して展示する「グタイピナコテカルーム」では、中之島にあった当時の施設をイメージさせる内装や仕上げを採用します。

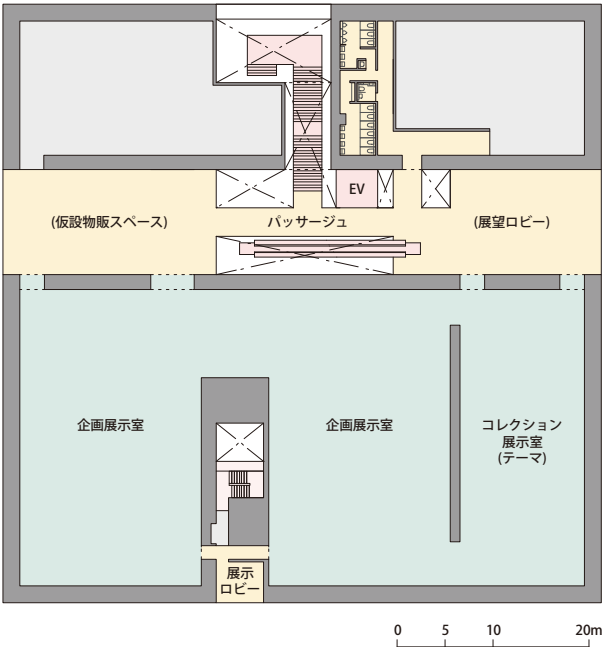
計画概要

構造・規模	鉄骨造、基礎防震、地上5階建
延床面積	17,305㎡(駐車場・駐輪場除く)

各階床面積			
1階	パッサージュ、講堂、研修室、サービス施設、事務管理諸室など		
主要室面積	講堂	416㎡	平土間／最大300席設置可能
	研修室(ワークショップ)	136㎡	
	サービス施設	712㎡	レストラン、カフェ、ミュージアムショップなど
2階	パッサージュ、アーカイブ閲覧室、キッズスペースなど		
主要室面積	アーカイブ閲覧室	70㎡	
	キッズスペース	87㎡	
	サービス施設	221㎡	カフェなど
3階	収蔵エリア		
主要室面積	収蔵庫(前室含む)	1,992㎡	天井高4.5m
4階	コレクション展示エリア		
主要室面積	コレクション展示室(グタイピナコテカ)	309㎡	天井高4m／可動間仕切設置
	コレクション展示室(日本近代)	438㎡	天井高4m／壁付展示ケース設置／可動間仕切設置
	コレクション展示室(デザイン/西洋近代/現代)	775㎡	
5階	企画展示エリア、展望ロビー		
主要室面積	コレクション展示室(テーマ)	448㎡	
	企画展示室	1,377㎡	天井高6m／可動間仕切設置

※計画内容は、パンフレット作成時点のものです。

5F



企画展示室

約1,700㎡の面積と6mの天井高を確保した企画展示室は、大規模巡回展の開催に適した設計となっています。また、2室に分割して利用することも可能で、小～中規模の様々な展覧会が企画できます。南北に貫かれたパッサージュは、両端に大きなガラス窓が配置されており、水都大阪を代表する中之島の素晴らしい眺望を楽しめます。

中之島にあった黒い建物

新美術館の外壁は、文化施設としては珍しい黒色ですが、偶然にも過去に中之島に新美術館の外壁を髣髴とさせる黒い外壁の建物がありました。それは、中之島の地で文化施設としての役割を大正末期から戦後にかけて担った朝日会館(大阪)です。実は、吉原治良が個人展覧会を開催したり、緞帳を制作した会館でもありました。

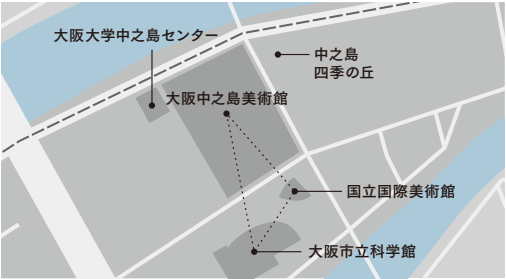
〔左〕旧朝日会館(大阪) 〔右〕新美術館外観パース



LOCATION

堂島川と土佐堀川に囲まれた「中之島」エリアは、水運に恵まれ、江戸時代には各藩の蔵屋敷が多く立地するなど、古くから大阪の経済や文化の中心地として栄えてきました。

このエリアは現在も「水都大阪」のシンボルゾーンとなっており、大阪の歴史・文化・芸術を感じることでできる集客施設や歴史的建造物などが数多く立地しています。新しい美術館とそれに伴う歩行者ネットワークが整備されることで、国立国際美術館や大阪市立科学館をはじめとした周辺の施設とともに、魅力あふれる文化芸術エリアが形成されることになります。



SCHEDULE



大阪中之島美術館 整備計画パンフレット 建築編

2019年発行
デザイン＝株式会社サトウデザイン 佐藤大介
印刷＝アート印刷株式会社

大阪中之島美術館準備室 〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86 大阪市中央卸売市場本場業務管理棟8階
Tel. 06-6469-5186 Fax. 06-6469-3897

